



作業療法学科

笹尾 久美子 准教授

【研究分野】 身体機能作業療法学、義肢装具学

【キーワード】 上肢切断、義手、情報提供

【U R L】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=187sasa>

上肢切断・義手に関連した研究

研究概要

上肢切断・義手をKeywordに上肢切断者を取り巻く現状把握やより適した義手操作技能の評価法などについて調査・研究を行っています。

研究紹介

1. 能動義手使用者の基礎的な義手操作技能を評価する指標に関する研究

日本では上肢切断者に特化した評価指標は存在せず、現場では代替の評価法を用いて実施している現状にあります。より適したツールで切断者の義手操作技能を評価できるように、能動フック使用時の能動義手の操作技能を評価する評価法を考案し、臨床での応用について研究しています。

2. 日本におけるSHAP使用に関する研究

欧米では成人の義手技能評価法として7つの標準化された評価指標が存在し、このうちの1つにThe Southampton Hand Assessment Procedure (SHAP)があります。SHAPは2002年に英国で開発された上肢機能検査であり、球体や円柱など形状と重さの異なる12項目の物品移動検査と14項目の両手動作を含む日常生活検査から構成されています。私たちはSHAPを開発した研究者に許可を得てSHAPマニュアル日本語版を作成し、日本人におけるSHAP標準値の収集などを行っています。

講座テーマ紹介

1. 義手の理解を深めよう～模擬義手操作体験～

本学には、自分の身体の動きを利用して義手をコントロールする体内力源式能動義手と筋から発生する電気信号を利用して義手をコントロールする筋電義手の操作体験が行える模擬義手があります。模擬義手の操作体験を通して、それぞれの義手の特徴や仕組み、機能を知って義手に対する理解を深めていただき、人間の手との違いについても感じていただけたらと思います。

2. SHAP評価法のご紹介・使用体験

SHAPは日本ではまだ馴染みのない評価法ですが、日常生活動作を取り入れているなどユニークな内容を含んだ評価法となっております。上肢切断者の評価にも使用できますが、他の疾患にも使用ができる構成となっております。本学にはSHAPの評価キットがありますので、使用体験をしていただきながら評価方法をご紹介します。

アピールポイントなど

- ・長らく上肢切断・義手をKeywordに調査・研究を行っており、上肢切断の作業療法経験を基に講義や執筆などを行っています。
- ・SHAPマニュアルの日本語版を作成しました。